

座間市教育研究所

草薙 尊

関 克彦

將基面 武

発表テーマ

社会科副読本の見直しと活用に関する調査研究

1 研究の経緯

座間市では、昭和 59 年に中学校社会科の副読本である、「郷土読本座間」を発行し、それ以来資料の差し替えや内容の加筆修正を加えてきた。

この副読本の特徴は、市内の発掘調査や郷土史研究の成果を元に、座間の郷土史について分かりやすく解説していることである。また、歴史に加えて地形や産業、座間市政に関する記述もあり、社会科の授業内容を意識して作成されている。

読み物資料として優れているが、文章が多く読みこなすのに時間がかかること、資料や内容が時間経過と共に古くなったことから、社会科の授業で活用しやすい資料集を新たに作成することにした。

2 中学校社会科資料集「座間」作成の要点

授業の中で活用する資料集を作成するにあたり、平成 29 年に改訂された学習指導要領が示す、育成すべき資質・能力を意識した。

(1) 「知識・技能」に関して

特に技能の部分に着目し、授業の中で様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を育てられるように、以下のような工夫を行った。

- ① 情報の集め方を学べるように、参考となる HP を紹介したこと。
- ② 資料集を用いて情報を読み取る力を身に付けるために、最新の地図や図版、データを掲載したこと。
- ③ 読み取った情報をまとめる力を身に付けるために、人口の変化をグラフ化する作業を行うワークシート等を挿入したこと。

(2) 「思考力・判断力・表現力等」に関して

「思考力・判断力・表現力等」については、社会科学学習指導要領解説に示された社会科の各分野固有の「見方・考え方」を生かした学習が進められるように、以下のような工夫を行った。

- ① 地理的分野では、「空間」に着目し、地域という枠組みの中で人間の営みと関連づけるため、市内

のバス路線図や農作物の分布図、ハザードマップ等、様々な地図を掲載するとともに、地図中の場所をイメージしやすくするために写真を挿入した。

- ② 歴史的分野では、「時間」に着目し、出来事の時期や推移を意識させるため、各時代の出来事を年表で整理した。なお、「大化の改新」のような教科書で扱われている出来事の説明については、授業で教科書と併用するという前提から、記述を省き、座間市及び近隣地域での出来事を中心に扱った。

- ③ 公民的分野では、「相互関係」に注目し、座間市の現状について政治・法・経済などから見た様々な最新の資料を掲載した。

(3) 「学びに向かう力・人間性等」に関して

生徒が授業の中で主体的に学習に取り組もうとする態度に繋げるため、以下の工夫を行った。

- ・生徒の生活体験を生かして学習を進めるため、小学校の給食や身近な駅などの資料を掲載した。
- ・カラー写真や図版を使用して、見やすく分かりやすいページ構成にした。
- ・資料を見ながら課題に取り組めるように、資料とワークシートを同ページに配置した。

3 授業での活用

資料集の原稿は平成 30 年度に完成し、令和元年度の中学校 1 年生から配付されている。そのため、中学 1 年生の地理的分野「世界の諸地域」の単元で授業実践を行った。アジア州の学習の中で中国の人口ピラミッドや一人っ子政策による人口構成の変化を学習した後、身近な地域である座間市の人口について資料から読み取り、今後の人口変化を予測させた。

文章表記だけでなく、カラー写真や図版を入れた資料は見やすく、生徒も意欲的に学習に取り組んでいた。一方で、授業で活用することによって生徒がグラフを作成するワークシートに罫線が入っていないことや、資料集の写真が座間市のどこの場所を指しているかが生徒に伝わらないことなど、資料集にはまだまだ改善の余地があることが分かった。

4 本研究の成果と今後に向けて

本研究の成果としては、授業での利用をより意識した資料集を作成できたこと、資料集を実際に活用して、生徒が意欲的に取り組む授業を行うことができたことが挙げられる。

一方で、授業での使いやすさという点では多くの改善の余地が残っている。今後授業で活用しながら、より使用しやすい資料集にしていくとともに、授業実践を積み重ね、座間市内の社会科教員で共有することで市内全体の授業の質を向上させていきたい。